The Paint & Finishing News　塗料報知新聞社
『塗料報知』　22.04.2009　No.3843　TopPage

欧州コーティングスショー開催

本紙 視察団派遣＆初出展
強い〝トレードショー色〟

ドイツのニュルンベルクメッセで、第10回ヨーロッパコーティングスショーが3月31日から3日間開催され、前回を上回るトレードショーが連日積極的に展開された。本紙は視察団を派遣したほか、初めてヨーロッパコーティングスショーに出展し、我が国の塗料産業および本紙の事業内容などを紹介した。

欧州塗料を旅する 1

今回のテーマは「環境にやさしい新技術」で展示があった。来場者は90カ国から2万人余が参加した。

出展企業は、コーティング原材料、インキ、接着剤原料、製造機械設備、試験機、測定器と安全、サービスなどである。

各ブースではVOC規制をクリアした商品が主力で、水系やナテク商品、再利用や回収技術のほか、製造機械コーナーでは特殊な反応釜の展示が目についた。

この展示会は第一回目から、世界から一番新しい情報、質の良い新製品を集め提供する場として役割を果たしてきた。世界的な景気減速の影響で出展社、来場者の減少が心配されたが、若干前回を下回ったものの、6ホールのネットスペースは2万7485㎡で前回を上回った。

各ブースでは通日トップ責任者が対応するなど、新製品、機能製品、環境対応製品の拡販のため、熱心な商談を繰り広げ、目標を越える手応えがあったようだ。

同時開催のコングレスは、160人が26テーマでそれぞれ講演し、46人が参加した。最優秀賞にはローム&ハース（米）のZhen Wen Fu博士の「Designed diffusion technology: A paradigm shift in film formation」が選ばれた。

主催者であるヴィンセンツ・ネットワークでは「世界のトップの専門家が集まっている。各国で展示会を開いていると思われるが、このショー開催時間は他の予定を外してでも是非来場して下さい」と述べている。次回は2年後の2011年3月29日から3日間、同じニュルンベルクメッセで開く。

本紙は、第2回を皮切りに数回メッセ会場に視察団を派遣してきが、今回初めて出展した。ブースには「日本の塗料産業を知りたい」「建築塗料の需要はどうか」「各市場はどうなっているか」など多様な質問を受けた。まさに塗料業界人との交流、情報交換の場となった。

会場では、アルタナグループのBYK、BYK－ガードナー、エカルトのほか、3M、ローム&ハースなど展示会の常連が並んだほか、日本からも、旭硝子、旭化成、協和発酵ケミカル、楠本化成、長瀬産業、日本触媒など多数の出展があった。

アルタナグループは、地元開催に一段と熱が入り、各種新製品、機能性製品を展示し、ブースはいつも満席だった。

出展社の中には、「新しい水性タイプと、イソシアネートフリーを紹介し、欧州の塗料メーカーの評価を得たい」「従来品だが新しい顧客を開くために出展した」「溶剤系では実績がある。今回は水系を売り込みに来た」「塗料を評価できる機関を作りたい」「塗料をイメージしやすいようなデザインで提供する」「水系を進めていくが、お客が使いこなしていない。それをいかに進めるかが今回の課題だ」「初めて水系モノマーを出展した。商談が楽しみだ」など、製品、技術のPRを積極的に展開していた。

本紙ブース前でのツアー参加者たち

各ブースでは積極的な商談が行われていた

〔本紙ツアー参加者のコーティングショー一口コメント〕

▽水谷宏彦・水谷ペイント代表取締役社長＝環境に厳しいエリアで先端技術の開発を進めている。展示ブースでは展示ショーだが、熱心に話しかける売り込みに学ぶものが多かった。

▽坂本孝一・丸山塗料商事代表取締役社長＝日本では極一部にまっている独自で先端的取り組みをしている、いろいろな発表が見られた。

▽高松厚・大日本塗料評価部部長＝商談中心のトレードショー、展示物を見たほか、いろいろな商品価格を知ることができプラスになった。

▽國房久嗣・クニシマ代表取締役社長＝機能的な商談中心のトレードショーだ。熱心に話しかける売り込みに学ぶものがあった。

▽坂本孝一・丸山塗料商事代表取締役社長＝日本では極一部にまっている独自で先端的取り組みをしている、いろいろな発表が見られた。

▽高松厚・大日本塗料評価部部長＝商談中心のトレードショー、展示物を見たほか、いろいろな商品価格を知ることができプラスになった。

▽國房久嗣・クニシマ代表取締役社長＝機能的な商談中心のトレードショーだ。熱心に話しかける売り込みに学ぶものがあった。

▽坂本孝一・丸山塗料商事代表取締役社長＝日本では極一部にまっている独自で先端的取り組みをしている、いろいろな発表が見られた。

▽高松厚・大日本塗料評価部部長＝商談中心のトレードショー、展

日塗工理事会 ペイントショー
景況みて開催へ
REACH登録対応進める

日本塗料工業会（小林正受会長）は、第215回理事会を16日午後2時から東京都渋谷区恵比寿の東京塗料会館で開催。

事務局は、製・販・普及委員会でペイントショーを中止、ドリームに比べVOC関係が平成13年度に比べ19年度は18・3%減になった。さらなる努力が必要である。

化学物質管理関係は、昨年6月からヨーロッパのREACHの予備登録が始まり、20社が対応している。日塗工は希望する会員会社の情報交換の場を設けている。

安全管理では、ゼロスターを制作し、目に見える対応を行い、20年度は死亡事故がゼロになった。

普及事業は、製・販・普及委員会でペイントショーを中止。ドリームペインティングは遮熱塗料などのパンフレットを共同で制作し、来場者にPRした。今年度は厳しい環境下だが普及活動に少しでも塗料の拡販につなげる。ペイントショーは景気の回復を見て早い時期に開催する。

新JIS改定で、昨年9月末に工場認証制度から製品認証制度に変更になり、各社は200商品の新JIS登録、取り扱いについて昨年末から今年にかけ、日塗商、日塗工、販売委員会で説明した。

色彩景観については官公庁に働きかけ手応えを得ている。統一した景観は地価が上がり、需要開拓につながることをアピールした。

2月にドイツ・ミュンヘンで第4回コーティングサミットが開催され小林会長が出席、日本の塗料工業をデータに基づき説明した。

その内容は、日本の塗料業界はGDPの伸びに比例して量的に伸びてきた。しかし、最大のポイントはこの間、塗料の単価は石油危機のとき以外ほとんど伸びなかった。化粧品の金額の伸びは、1960年比30倍になったGDPより多少上である。塗料は最近ではGDPの半分以下。塗料は売り値の75%が製造コスト。それに対し化粧品は25%。化粧品は付加価値の最大化にお金をつぎ込んでいる。塗料業界もこれを見習わなければならない所にきているなど。

2009年E版塗料用標準色（656色）が完成し会員に配布。2011年度F版（632E色）がスタートし、5月1日予約を募集する。特に便利性、コスト、社会性を配慮し開発する。また今回、東京大学の伊藤助教授の指導で、色の見え方が一般の人と違う人も対応出来る色にするなどを報告した。

21年度事業計画で、化学物質のナノ粒子についてはっきりしていない所がある。今後検討していくことを盛り込んだ。

鉛リスクリダクションは平成8年になって行く方向を打ち出し、現在鉛顔料は半分になったが、半分残っている。家く。

〜〜〜